

南アルプス：北岳バットレス

- ◆日程 2019年10月9日(水)～11日(金)
- ◆メンバー L：須田(健)、日比野
- ◆天候 晴れ

10月9日(水)

朝7時に日比野宅により日比野さんをピックアップ。甲府昭和ICで高速を降りて牛井屋で昼食を食べる。夜叉神峠の駐車場に車を停めてバスに乗り換える。広河原で降りて歩き始めるがザックが重い。登攀具類が重いのかいきなりの急登で息が切れた。2時間半くらいで白根御池小屋に到着。テントを設営して明日のルートへの偵察に出掛けた。

二俣から10分くらい行くとロープが張ってあるガレ沢があり、ヒドンガリーだと思われた。そのまま八本歯のコル方面に進んで行くと大きな石があるガレ沢の分岐が現れた。ここがバットレス沢に違いない。概念図で見たときよりは八本歯のコルに近いと感じた。とにかく入り口が分かったので一安心。テントに戻り夕飯のすき焼き丼を食べて早めに就寝。

10月10日(木)

10日朝は3時起床。ラーメンを食べて4時20分出発。昨日下見したバットレス沢を上がって行く。ガレガレの沢を詰めて行くと正面にbガリーが現れ、大滝の取り付きでハーネスを付ける。一見するとロープを出さなくても登れそうな感じだったが、念のため1本だけロープを出すことにした。私がトップで登り始めるがピンの位置が遠く、かついきなり難しい。直登はあきらめ右にトラバースしながら登るが微妙なスタンスで動きが止まる。落ちないように慎重にじりじりと10m程斜上するとようやく残置ハーケンが見つかり一安心した。その先の良さそうな支点でピッチを切ってビレイ解除した。上から見ると取り付き場所はもっと右からが正解のようだ。日比野さんが登ってきて2人で顔を見合わせ、最初から厳しいなあと苦笑いした。



それから2ピッチで緩傾斜帯に出た。横断バンドを左に向かっていくとブッシュ帯にしっかりした踏み跡がある。そこを通過していくとcガリーらしきところに出た。赤スプレーで4オネと岩に書いてあり、cガリーであるのが確認できた。先ほどから我々以外は誰もバットレスに取り付いているパーティーはいないので、落石の心配をしなくて済むのは有り難いがルートの確認に慎重にならざるを得ない。100mほど登ってやっと第4尾根の取り付きに着いた。

少し休憩して時計を見ると9時過ぎだった。既に出発から5時間近く経過している。1ピッチ目は日比野さんがトップで行く。顕著なクラックからハイマツのフェイスを30m登りピッチを切る。2ピッチ目は私がトップで欲張って50mロープいっぱい伸ばして残置ハーケンに辿り着いたが、ハーケンの強度が頼りなかったので1本打ち足



そうとしたら途中でハーケンが飛んで行ってしまった。仕方ないのであまり残置にテンションをかけないようにしてビレイした。

4ピッチ目の5mくらいの小垂壁はツルツルだったがピンはたくさんあったのでA0を連打して力業で突破する。高度感抜群のリッジをビビりながら進むとマッチ箱に着いた。マッチ箱は過去に2度大崩落していて、もうマッチ箱



の形はしていなかった。ここから10m懸垂下降してコルに降りるのだが、両側が切れ落ちた尖ったリッジ状のところを降りなければならない。怖えー、とかなり腰が引けながらも何とかコルまで降りる。コルからマッチ箱を見ると大きな亀裂が走っていて、いつまた崩落してもおかしくない。

6 ピッチ目の枯れ木テラスの先で左にトラバースするところがまた恐ろしく、ここも高度感抜群の難所だった。7 ピッチ目の城塞のところでは被り気味で右足の置き場が無く、宙に浮いている状態でA0で上がろうとするがどうしても上がることが出来なかった。2m先にピンが見えるが身体が持ち上がらない。手に力が入らなくなって、ヤベー落ちる!!と焦ったがヘルメットと肩で岩を抑えて落下を止め、左手を不自然な角度で持ち上げてピンにヌンチャクをクリップした。冷や汗ものだったが何とか落ちずに這い上がったのだが、1週間後も左腕の痛みは取れていない。2時半に終了点に到着、3時に北岳山頂に登頂した。

白根御池小屋に17時に着いたため夜叉神のゲートが閉まる時間(18時)には到底間に合わないのもう一泊することにした。食料が足らなかったのも小屋でカップラーメンと赤飯を買って夕飯としたが味噌ラーメンが激ウマだった。

今回は岩のコンディションが良く、バットレスも貸し切りで天候も申し分のない最高の状態だった。少し時間はかかったが岩登りの楽しさを満喫することができた。(記：須田)

10月9日(水)

朝7時に町田を出発。11:17 夜叉神峠発のバスに乗る予定なので時間に余裕がある。途中昼食を食べたが早めに着き、1本前のバスに乗ることができた。平日なのにバスはほぼ満席だった。広河原11時到着。とてもいい天気。明日登る北岳バットレスが良く見える。白根御池小屋に向かうが荷物が重い。夏山装備だが登攀具とロープが追加されると全然違う。冬山はもっと重くなるのかと考えると体を鍛えておこなきゃと思う。歩き始めるとすぐに急登になる。急がず登る。涼しいが汗がにじむ。休憩していると寒い。小屋には予想よりも早く着いた。

テントを張り明日の偵察に出かける。二俣の先のバットレス沢の入口を確認するのが目的。二俣から15分くらい登るとヒドンガリーらしき沢がありさらに登る。しばらく登るがなかなか次の沢が出てこない。途中見逃したか不安になりながらももう少し登ってみる。八本歯ノコルがだいぶ近づいてきたなと感じるくらい登ったところでバットレス沢出合いに着く。大きな岩が目印なので間違いない。これで一安心。



10月10日(木)

昨日下午見をしたので暗いうちから行動を開始する。1時間位でバットレス沢出合いに着き、ちょうど明るくなってきた。沢を登っていると目の前の岩稜帯が朝陽で赤く染まってきた。bガリー大滝は左側から須田さんがトップで登る。下から見ているとそれ程難しそうには見えないが、実際に登ってみるとここが今日の核心ではないかと思うくらい厳しかった。今度ここをトップでできるか考えるとかなり怖い。後でネットで調べてみると、登ったルート右側のクラックがやさしいようだ。その後はロープなしでbガリーを登る。上部に行くと直進か左か迷うところがあり、よく見ると別の方向の木の枝にピンクのリボンが付いていた。行ってみるとしっかりした踏み跡があり、cガリーまで行くことができた。cガリーまで来ればペイントがあるので4尾根取り付きまでは迷わない。テラスからはすばらしい景色が見える。1ピッチ目



は自分がトップで行く。出だしがいきなり難しい。5~6mのクラックに手と足を突っ込み何とかよじ登る。ここを越えてしまえばこのピッチは快適に登れる。1ピッチ終了点からは二俣、バットレス沢、C沢D沢が良く見える。2ピッチ目は須田さんが50mいっぱいまで伸ばす。3ピッチ目はピラミッドフェースの右下の白い岩のホールドの多いスラブ。まっすぐ上に向かうと第一のコルに着く。ここに支点があったが、もう少し伸ばせそうなので右に曲がり第二

のコルまで行く。ここは広く足場がいい。次のピッチは三角形の垂直に近い壁から始まる。ここはかなり難しそう。手も足もホールドが見つげにくい。何とか須田さんがクリアする。セカンドで登るがやはり難しい。仕方なくA0で登る。ここを越えるとマッチ箱まで高度感のあるリッジを登る。足場はいいが高度感がすごすぎる。次の懸垂下降は今までで一番怖かった。ロープをつかんでいれば落ちないのだが、両側が切れ落ちて足場が尖っていたので腰が引けてしまう。時間をかけてゆっくり下り一安心するが、ここもあまり足場が良くない。ここからはまっすぐ上にスラブが伸びている。中間位のところでトップを交代する。上を見ると枯木が見える。あそこが枯木テラスか?と思いつながり登っていくとピンはあるがテラスと呼べるような場所はない。奥を覗いてみると垂直の断崖絶壁だった。ここも昔崩れたところなんだと思う



と怖くなる。枯木からリッジを上りスラブの先端をつかんで左にトラバースする。高度感がありヒヤヒヤする。途中岩が切れている所があり谷底が見える。城塞ハングの下でピッチを切る。最後のピッチ城塞ハングは須

田さんトップ。ここも手強そう。かぶり気味の狭いチムニーはうまく行かないと身動きがとれなくなりそう。セカンドで登り始めるとやっぱり難しい。A0連発でチムニーを抜ける。スラブを少し登るとハイマツ帯に出て終了。

久しぶりの岩登りはとても楽しかった。バットレスはかなり前から来たかったところで一つ願いが叶った。須田さんありがとう。北岳山頂は2年前の冬合宿以来。池山吊り尾根も良く見える。疲れた体での下山は長く感じる。白根御池小屋でタクシーが間に合わないことが分かりもう一泊。小屋で食料を買えたので助かった。昨日は控えていたビールで疲れを癒す。(記:日比野)



CT : 10/9 広河原 11:20-休 11:55-第2ベンチ 12:50-白根御池小屋 13:40/14:20-バットレス沢分岐-白根御池小屋 16:30

10/10 白根御池小屋 4:20-休 5:10-バットレス沢 5:30-b ガリ-6:30/7:05-b ガリ-上 8:20-4尾根取り付き 9:15-第1コル 11:00-マッチ箱のコル 13:00-終了点 14:25-北岳山頂 15:00-肩ノ小屋 15:45-白根御池小屋 17:00

10/11 白根御池小屋 7:20-休 7:55-白根御池分岐 8:40 - 広河原 9:00